



e-La Voz

「エー・ラ・ボス」と読みます

HCJB『アンデスの声』
メールマガジン
(第4号)

2003年2月11日発行

HCJB Australia のアジア向け送信 相次ぐ強風でアンテナ破損



オーストラリア北西部のクヌヌラ(Kununurra)地区に約81万平方メートル(東京ドーム約17個分相当)の土地を購入してアンテナ基地を建設したHCJB Australiaでは、HC100(HCJB製百キロワット送信機)が11月中旬に到着したのを待って、試験電波の送信をはじめました。ところが、まもなく "Willy-Willy (ウィリー・ウィリー)" と呼ばれる同地区特有の熱帯低気圧性の強風(南半球なので日本の台風とは逆に右巻き 時計方向の渦巻きです!)に見舞われアンテナが倒壊したため送信を中止。その後、アンテナの修復を終えて、1月には本放送に入ったものの、ふたたび強風が吹きすぎびアンテナがまたもや破損。それではと2月2日まで送信を延期して、送信再開したのも束の間、その2日後にはまたもや風害でアンテナがこわれたため、なんとか応急処置をほどこし、出力を25キロワットまで下げて送信中です 2月9日現在。二転三転する状況のなかで、DX Partylineのホスト Allan Grahamさん(右の写真)も頭の痛いところです。何事も事の始めは予想しないことが起こるものですね。



1939年にHCJBでは10キロワットの短波送信機を設置、4素子のハムアンテナを使って放送を始めたところ、ラジエーターとデレクターの先端が青白い炎を出して溶けていくではありませんか。これは空気が希薄なためのコロナ放電のいたずらでした。1942年夏にクラーレンス・ムーア技師が四辺形のループ・アンテナを考案、これにより、アンテナの“仕掛け花火”は止まり、さらに良いことにQが低く、大きな利得が取れるアンテナであることがわかりました。ここに「キューピカル・アンテナ」が誕生したのです 山田耕嗣さんのHCJBのミニ知識より。だれかに今度は「風に立つライオン」のようなアンテナを考え出してもらいたいものですね。

HCJB Australiaからの送信スケジュール

• 南太平洋向け

(オーストラリア東部、ニュージーランド、フィジー、トンガ、サモア、バヌアツ、タヒチ、ソロモン諸島方面)

周 波 数: 11.770 MHz

時間(UTC): 0700 ~ 1200

• アジア向け

(インドネシア、シンガポール、マレーシア、タイ、ミャンマー、バングラディッシュ、スリランカ、インド、ネパール、パキスタン、アフガニスタン方面)

周 波 数: 15.480 MHz

時間(UTC): 1230 ~ 1730

• 受信レポートの宛て先

HCJB Australia

PO BOX 291

Kilsyth, Victoria 3137

AUSTRALIA

「アンデスの声」スペシャル　こころの放送36年の軌跡 CM抜きで長時間90分のドキュメント番組をBS＆短波で放送

このたび、ラジオたんぱの特別番組をおききください、メール、受信報告書などをお送りいただいた皆様には、この誌上を借りてこころからお礼申し上げます。わたしたちもここアンデスの山の中で真夜中すげに枕もとの短波受信機のダイヤルをあわせて聞かせてもらいました。ほんとうにどこの馬の骨ともわからないものを選び出して、こうして愛を語り、愛に生き、愛を証明する道を歩ましてくださっている愛の源 - その神のはかりしれない恵みをつくづく感謝しました。CMなしの1時間半、次から次に走馬灯のように自分たちの「こころの旅路」が写し出され感無量でした。この番組を企画担当されたラジオたんぱの日比谷取締役と矢吹プロデューサーから次のようなメールをいただきましたのでご紹介します。

無事放送を終えました。矢吹にとっては事実上初めての大型番組の制作でしたが、幸いリスナーの方からは、「ひさしぶりに短波ラジオを引っ張りだして聞いた」、「久々にきく尾崎夫妻の声がなつかしかった」など、好意的な受信レポートが届いており、放送できてよかったです。リスナーの方からは尾崎さんの声をまた聞きたいという声が多く、いずれかの機会にまた放送で紹介できることを考えみたいと思っております。日比谷

放送を終えて一週間、完成させることができた安堵感とともに、今考えることは、「やはり下関に行きたかったな」ということです。36年8ヶ月にわたった放送、その長きにわたり精力的に活動を続けるということは、「宣教師としての使命」、「リスナーの方々への使命」という言葉だけでは片付けられない「何か」が存在していたはずです。それを自分自身の目で確かめたかったです。今回の取材では外にマイクやピンマイクをつけて歩きながら話してもらったり、空港に向かう車の中までマイクを持ち込ませていただきました。90分という長いドキュメンタリーを制作するのははじめてで実験的だったところもあります。これだけの貴重な体験は必ず今後に活かしていくつもりです。食事もいつもいっしょにさせていただきありがとうございました。矢吹

5月に 日本語放送 39周年記念番組を企画中

HCB英語部では、日本からのリスナーの受信報告書の中に日本語番組を英語番組のなかに年一回でも入れて欲しいと言う要請があとを絶たないため、それに応えようと、去年に続いて今年も5月1日の日本語放送開始記念日の頃に、日本語放送39周年の記念番組を企画することになりました。すでにJeff Ingram英語部部長とEric Skattebo制作部長も了解済みなので、今後は具体的な内容について検討がすすめられることになっています。この番組の企画内容や特別ペリ発行に関して良いアイディアがあれば教えてください。

在住 尾崎一夫 久子

このメールマガジンは、HCB『アンデスの声』日本語部の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。

このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、[HCB『アンデスの声』日本語部](#)までお送りください。

また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録は、下の該当ボタンを選択し、必要事項をご記入の上、[この内容で送信する] ボタンをクリックして、手続きをお願いします。なお、
Netscape 6.2以降をお使いの場合、このメールマガジンに埋め込まれているご登録手続きの機能はご利用いただけません。 ご面倒ですが、[HCB『アンデスの声』日本語部](#)まで別途メールにてお知らせください。

配信の停止（ **重要:必ず現在メールマガジンの配信登録されているメールアドレスからご送信ください。** ）

配信変更先のメールアドレス
(**重要:必ず現在メールマガジンの配信登録されているメールアドレスからご送信ください。**)

新規登録するメールアドレス

[この内容で送信する](#)

[リセットする](#)

お送りいただいた内容はメールリスト・サーバにより自動的に処理しますので、余分な内容は一切入れないでください。
このメールマガジンはコンテンツが大きいため、携帯電話への配信はできません。



Copyright © 2003 by HCJB. All rights reserved.

日本語ホームページ: <http://www.hcjb.org/japanese/>

Eメール: kozaki@hcjb.org.ec

郵便の宛先: HCJB, Casilla 17-17-691, Quito, ECUADOR